

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314

かさおか



波止 (鞆)

おつとめ奉仕者の増員

- ・一人ひとりがおつとめに真実を尽す
- ・布教によるおつとめ奉仕者の増加
- ・後継者講習会への参加による奉仕者の増加

立教170年
2月号



昨年、感激の慶び一杯の年祭を迎えられたことは、皆さん方が真実、心を寄せてつとめた結果と思います。改めてご苦労様でした。

また引き続きその勢いのままに、親の声に添って、それぞれ精一杯おちばがえりを推進してつとめられ、お陰で、笠岡として、延べ一万四千人余りの方が帰られました。年祭の年としておちばを賑やかにする、その一端を担えたのではないかと思います。

毎月一教会十名と申し合わせましたが、十名以上の教会も沢山ありましたし、残念ながら一ヶ月だけ十名に足りなかった教会も沢山あって、それぞれ心一つにつとめられ、昨年一年は本当に素晴らしいおちばの姿を見られたことは、皆さん方が素晴らしい働きをされた結果ではなからうかと思えます。一年間、それぞれ精一杯おつとめいただき、本当にありがとうございます。改めて御礼を申し上げます。

いよいよ年が改まりました、次の塚に向かつての成人の歩み出しが始まった今日ですが、その上について、十年後の百三十年祭に向かつての思いをお取り次ぎしますので、どうぞお付き合ってお願しいたします。(拍手)

次の塚に向かつての目標は



まず、結論から申しますが、百三十年祭のときのそれぞれの教会でのおつとめ奉仕者の数を、百二十年祭の年よりも増やそう、これを目標に、次の塚・百三十年祭に向かつて歩みを進めたい。

考えてみれば、百二十年祭を目指して、初席者を増やすよう努力し、現実には前年の倍以上の初席者の御守護をいただきました。素晴らしい皆さん方はたらきだと思えます。

そして、せっかく初席者がそれだけできたのだから、中席を運んで、年祭の年にはおさづけの理を拝戴したら何より素晴らしいということで、昨年は、それも含めて、おちばがえりを推進しました。

しかし、真柱様の年頭のごあいさつにもありま

すように、年祭が結果ではなく一つの過程であるなら、おさづけ拝戴も、これは結果ではなくて成人の過程です。

おさづけ拝戴の目的は、その人たちがおつとめ奉仕者になって、たすけの理をつくるとともに、教会の真の繋がり、よふぼくとなって、にをいかけ・おたすけにも尽くしてもらおうのが真の目的です。

そのためには、おつとめ奉仕者にならなければ、なかなか教会に繋がる本当のよふぼくというには届かないというのも現実でしょう。

毎月の「祭典報告書」を見ると、ほとんどの教会が百年祭から百十年祭、百十年祭から百二十年祭に向けて確実におつとめ奉仕者の数が減ってきています。

初席者・よふぼくの数がそれなりに出ているので、その人たちが皆おつとめ奉仕者になったら、間違いなくおつとめ奉仕者の数は増えているはずですよ。

ところが、初席者・よふぼくの数が出ているのに、おつとめ奉仕者の数が減っているということは、そこまで育て上げられていないという一つの姿が浮き彫りになっていると思えます。

昨年秋の大祭で、真柱様は、年祭活動が年祭活

動に終わらずに今後の活動の上に繋がるようにつとめてもらいたい、教会の常時活動はつとめと布教であると、お話しくださいました。

そこから、つとめが先ず第一と考えれば、おつとめ奉仕者が揃うことが、間違いなく親神様の自由の御守護をいただくことに繋がるのですから、おつとめ奉仕者を如何に充実していくかが、次の塚に向かっての大きなテーマになってしかるべきです。せっかく初席者・よふぼくにまで育ててきたのなら、おつとめ奉仕者に育て上げる道筋をこれから十年かけて歩まねばなりません。

つとめと布教が教会の常時活動であるなら、先ずつとめの充実、そのためにはおつとめ奉仕者の手を揃えることを次の塚に向かっての大目標にせねばと思いますので、どうぞそれぞれの教会においても、おつとめ奉仕者の数を増やすことを目標にして歩み出していただきたい。

気概をむすびまじりて



今の顔ぶれに一名プラスではありません。十年の間に、出直し等も含めておつとめがつとめられなくなる方も当然出てきましようから、一人増やすのではなく、むしろ今年から一人ずつ増やしても十名、十名増やしてもはたして…。高齢化の今日、各教会でも高齢化が進んでいるでしょうし、

おつとめ奉仕者の数を増やすのは簡単ではありません。まあそれこそ倍にでも三倍にでもなれば一番ありがたいのですが、それぐらいの気概を持ちたいものです。

ところがやはり十年後ということになりますと、ある程度歳がいけば「もう私は居らんから関係ない」というような方の中にはひょっとしたら居られるかも知れません、若い人でそういう思いがあるなら気持ちは年寄りです。

若ければ若いほど、「いややってみなわからん、よし、やってみようか」というのが若い人の気持ちではないでしょうか。

これは年令は関係ありません。歳いった人も若い気持ちを取り戻して「やってみなけりわからん、よし、やらしてもらおう」という気持ちを持つてつとめていただきたい。

百十五歳定命と仰っていますから、「今年百歳、十年後百十歳、居らんかも知れんなあ」と言わずに、「まだ五歳先があるなあ、よし、頑張らせてもらおう」と言うような気持ちでもつとめられればありがたい。

歳に関係なし、心一つです。どうぞ、気持ちを若く持って、「よし、やらしてもらおう」という思いを皆心一つにおつとめいただきますようお願い申し上げます。

今、歩み出さじや



別席・おさづけの拝戴は自分の都合で運べますが、教会での毎月のおつとめ奉仕は、自分の都合ではつとめられません。神様の都合を優先しなければつとめられません。

その中、今日こうやって教会に参拝し、おつとめをつとめてもらうのは、真実がなかったらできることではありません。今日ここにいらっしやる皆さん方は本当に真実の人だと思います。

その真実の人を、次の年祭の塚に向かって如何に育て上げていくかがこれからの大切な角目・つとめ向きになるわけです。

これからこの十年かけておつとめ奉仕者に育て上げていこうと思うわけですが、十年かけてできるかできないかということをやりますから、尚更しかりと十年後を見据えて歩み出していかなければ、「いやもう十年後やから十年経ったらやたらええ」というような思いでは、増やすどころか減っていくのが現実です。

今年からその思いで歩んでいかないと、むしろ今年から一名ずつ増やしていくぐらいの気持ちになかったら、実現不可能ではないでしょうか。

今年「歩み出しの年」である。そこを心に置いてつとめていただきたい。

うんじたらふよこのか



そしてそのためにはどうしていくのかということですが、月々おつとめをつとめるのは、余程の真実がなければつとめられません。その真実の人を育てていくのなら、やはり育てる私たちが真実をしっかりと積み重ねて、真実を持たなければ、そういう人は育てていけません。

ただ単に教理を取り次ぐだけなら、記憶力が良ければ誰でもできます。親神様はこう仰った、おふでさきおさしづでこう述べておられるということを取り次ぐだけなら、記憶力さえ良ければ誰でもできます。

しかし、それではおつとめ奉仕者にまで育て上げることはできません。その取り次ぐ私たち一人ひとりに、真実の心がなかったら、おつとめ奉仕者にまでは育て上げられないでしょう。

とするなら、やはり今年から一人ひとりが、親神様に受け取っていただく真実をしっかりと積み重ねなければなりません。

『教祖伝逸話篇』の中に「真心の御供」というのがあります。(本文略)

日々の歩みの中で、先ず「私」が優先して、もし親神様のことが後回しになっていたら、これは真実にはなりません。

例えば、月々お供えをするにしても、先に生活費やら何やら取ってしまった、これならお供えに上げられるかなあと言って持ってくるのと、先にお供えはこれだけしようと取っておいて、その残りで生活をしようかと言って持ってくるのでは、額が同じでも、受け取っていただく真実は違う。

それぞれ教会・布教所に住まいして、果たしてどうなんだろうか。先にこれだけはまず親神様にお供えとってとっておいてお供えするのか、いや、今月はこれだけしかないから、これだけしようかといってするのか、これはどっちが神様に真実として受け取っていただけるのか。

額の問題ではありません。心一つが我がの理とお聞かせいただいているお互いですから、その心一つを、どう、受け取っていただける心に切りかえていくかが、一番大切な角目ではないでしょうか。

教会の御用、よふぼく・信者の丹精も、まあ今ちょっと自分の都合があるから、すまんけど先にするから、後回しにするのか、先に教会の御用、よふぼく・信者の丹精をして、自分の用事を後に回すのかによっても、これもやはり受け取っていただく真実は違う。

やっていることは同じでも、受け取っていただく真実は自ずと違ってきはしませんか。日々の心使いのほんの僅かなことだと思いま

す。ほんのちょっと、自分の方に向いている心を、神様の方優先に心を向けて歩むだけでも、やっていく道筋は変わってくるし、受け取っていただく道筋も変わってきます。もし自分の都合が優先しているなあと思われたら、先に神さんの都合を優先してつとめるだけでも、自ずと違ってきます。



おとろふよこのか



昨年一年の結果は、確かに一万四千人、平均すれば毎月一千人以上をクリアした計算になります。残念ながら、一千人に届かなかった月が半年(半年)近くの五ヶ月あります。

私たちは、一千人を目標めどにして精一杯つとめました。その真実は受け取っていただきました。しかしながら届かなかった月もあったということでは、真実が届かなかった部分もあったのではな

かったのか。つまり、受け取り切れてない私たちの真実もあったのではなからうかと改めて思いま

しんちつの心を神がうけとれば

いかなぢうよふしてみせるてな 五号 14

どのよふなむつかし事とゆうたとて

神がしんちつうけとりたなら 五号 40

月日よりしんちつ心みさためて

いかなしゆこふもするとをも多よ 六号 109

どのよふな事をするのもしんちつ

心したいにみなしてみせる 六号 134

というお言葉があります。確かに身上の上にも、真実心を見定めて鮮やか自由の御守護を見せてい

ただきますが、身上の上だけではありません。真実の心さえ受け取っていただいたら、毎月一千人

も、一教会十名もできたと私は思います。

一万四千人を一教会一ヶ月の平均に直すと八、一名です。一教会十名ずつ頑張ろうということ、

十名以上出した教会も数多くありました。しかしながら、平均してみると八、一名、これも僅かに

足らなかつたところでしょう。

とするなら、その僅かに足らなかつた真実を、

この十年間かけて私たち一人ひとりが積み重ねることが大切ではないでしょうか。それがなかつたら、いくら成人成人といっても、十年後には思っ

たような成人の姿は見せていただけなのではないかと思えます。

だからほんの僅かなのです。そのほんの僅かの神様が受け取ってくださる真実の心を、如何に積み重ねていくか、これが今年からやるべき問題ではないでしょうか。

身上事情で困ったときには、「さあ、真実」と

いって伏せ込んだら鮮やかに自由の御守護を見せていただく。しかしながら、身上事情ではなくて

「成って来る天の理」を鮮やかに御守護いただくような真実を、日々の中で積み重ねていかなければ、人づくりの上での大きな御守護は見せていた

だけないということなのではないでしょうか。

とするなら、日々の中でできるほんの僅かな真実を今日からどう積み上げていくかが、私は大切

ではないかと思えます。

真実がないではありません。皆、真実があるから大きな御守護を見せていただいているので

す。しかしながら、真実の人を育てていくには、やはり足りない部分があるということです。

それはほんの僅かなことです。そのほんの僅かの真実の積み重ねをどうしていくか、これは皆それぞれに違いましょう。

受け取っていただけなかつたのは、どこに真実

がなかつたのか、皆それぞれに思案をして、一月とか一年ではなくてこれから次の塚に向かう十年

をかけて、「よし、これで神さんに受け取っていただく」という日々の中でできる真実、これから末代かけてでもぐらいの気持ちを持って日々積み重ねていく真実、神さんに受け取っていただける真実を、何か一つ、この積み重ね、これをしたらどうでしょうか。

また、それができなかつたら、真実の人はなかなか育て上げられないと思います。ほんの些細なことです。立派なことを心定めたら続きません。今申したように、ほんの僅かなことです。

簡単な例を挙げると、目が覚めたらとにかく神さんに手を合わせる。ありがとうございます、とにかく声を出してでも、普段してなかつたらそれでいいですよ。

中には遠方の人で、それこそ日参を、手紙や葉書でしてくださる人がいます。遠方ですから、これも毎日続けるのは余程の気持ちになかつたら、やはり無理でしょう。一日二日一ヶ月ではなくて三年だけやるとしても誰でもはできませんが、毎日手紙葉書を書いて送ってくるというのはこれはなかなかできるものではありません。それを毎日続ける人もいます。

中には自分で賽銭箱を用意して、一日ありがとうございますと、毎日お賽銭を上げて、月々の祭典のお供えとは別に、それをまた運んでいる人もいます。

あつせやるだけじゃあよ



とするなら、日々の中で、積んでいける真実は
いっぱいありはしないでしょうか。

いっばいする必要はありません。先ずできるところからの真実・心を日々の中で積み重ねながら
布教・おつとめにと取りかかるところに、おつとめ奉仕者という真実の人も御守護いただけるのではないかと思います。

特別なことをせいと申しはいません。誰でもできることを申しております。教会長なら、布教所長なら、あとは申しません。

どうぞ一生懸命やりましょう。できるところから日々しっかり積み重ねして、「十年後には、おつとめ奉仕者、倍にする、いや、三倍にする」ぐらいの気概を持って、「一名増えたらいい」なんて思わないでくださいよ。最低でも一名であって、それこそ皆さん方が「よし、おつとめ奉仕者三倍にする。今、一交代。届かんけれど、よし、十年後には三交代や！」ぐらいの思いでやったら、絶対御守護いただけますよ。それだけの気概を持ってやったら、間違いなく二交代ぐらいは御守護いただけるのではないのですか。

それだけの大きな気持ちを持ってやっていかなかったら、今のこの時代、流されますよ。普通に当たり前のことを考えたら、今時代の流れ、悪い

方に悪い方にどんどんく勢い増えますよ。流れの勢い増えますよ。

できたらやりましょうなんて、そんな思いを持ったら、とてもではありませんがもう流されてしまっ、なおされません。「一名できたら、増えたらええ」なんて考えたら、とてもじゃないけど、もう直ぐに流されますよ。

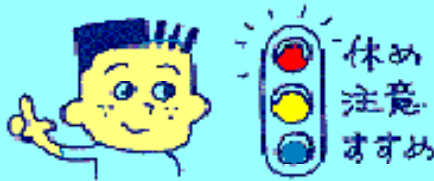
どうですか、全教会三交代目指しませんか、本当にそれ目指してやっとな名御守護いただけるか、かも知れませんよ。

どうぞ、皆さん方には言葉には出ていないところの意のあるところをお受け取りいただきまして、勢いを持って、十年後を目指してしっかりおつとめいただきますようお願い申して、年頭の挨拶とします。

どうぞ勇んでつとめましょう。よろしくお願いします。(拍手)
《以上要約》



【17】赤信号は何のシグナル？



車で走る。赤信号にばかりひっかかる時があるかと思えば、進むに従って全部青信号に変わる場合があります。イライラしたり、気分爽快だったり……。

青信号でスイスイ走れたら、それに越したことはありません。しかし、赤信号にひっかかったら、ああ、少し休めということだ、と思えばいいし、イライラする短気な性分を直すように、神様のシグナルと悟ればよい。

人生もよく似たもの。病気や事情に出会っても、クヨクヨせず、前向きに歩みたいものです。

春季大祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には人間の陽気ぐらしを楽しみに紋型ないところから人間をお創造はじめ下され守護を教えて八千八度の生れ更つまりをさせ智慧の仕込みや文字の仕込み等をして育て下され以来今日まで変わらぬ親心と十全の御守護を頂戴しております 加えて又天保九年には旬刻限の到来と共に教祖を月日の社としてこの世の表にお現れになり最後の御教えを啓示ひびき陽気ぐらしへの道筋をお付けになってお導き下さいます事は誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は日々御教えを心に生かされている喜びと感謝の気持ち一杯に「世界一列たすけたい」との親心に少しでも近付きたいものと朝夕に御礼申し上げつつおつとめと布教を通して成人の歩みを進めさせて頂いております その中にもこの月二十六日は教祖が一列子供の成人を急き込む上から御身をお隠しなされた尊い日に当たりおぢばでは春季大祭が執り行われますが当笠岡でも本日只今より陽気に勇んで坐りづとめてをどりを勤めて春の大祭を執り行わせて頂きます 御前にはおつとめ奉仕者を始め部内教会長よふぼく信者一同が遠近を問わず折柄の寒さも厭わず今日の日を楽しみに寄り集い相共にお歌を唱和して言改めて御礼申し上げ今年一年の成人の歩みをお誓い申し上げる真実の状をご覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて昨年は教祖百二十年祭として年祭の年としておぢばは大変な賑わいをお見せ頂きました 笠岡からも延べ一万四千人余りがおぢば帰りをさせて頂き大変喜ばせて頂いた事も改めて御礼申し上げます 年も改まっていよいよ次の塚に向かつての歩み出しが始まりました 真柱様からは「つとめと布教」のお言葉を頂戴し表統領からは「育成」の思いを聞かせて頂きました 笠岡では教祖百三十年祭を目標に「各教会でおつとめ奉仕者の増員」を推し進めてそのお心に応えさせて頂く所存でございます その為に御教えを広める努力はもちろん育成すべき私共が親神様に受け取って頂ける真実の心を日々僅かずつでも積み重ねていく所存でございます 今社会は真の親心を見失うと共に人類が向かうべき方向性を失って皆バラバラに只闇雲に突き進んでいるかのようでありますそんな中において道に繋がる子供達は真の親心に凭れ守られて着実に陽気ぐらし実現に向けて成人の歩みを進めさせて頂いております 何卒親神様には皆のこの真実誠の心をお受け取り下さいまして万たすけの上に尚一層の自由の御守護を賜りお望み下さる陽気ぐらしの世の状に一日も早くお導き下さいますよう一同と共に慎んでお願い申し上げます

こころの詩

▼『天理時報』元旦号(4009号)、「新春歌壇」より転載

東悠分教会前会長夫人 田 林 美智子

節こえて新たな道拓かんと

若水くみて誓う次世代

▼短歌 東悠分教会前会長夫人 田 林 美智子

寒風にめげずたくまし孫達の

ランドセル走る降雪の朝

としふりて霜をいたゞく人はさて

雛の黒髪幼な日のま、



学童保育「保育きずな」

芳井分教会 佐藤 和代

○開所して丸3年(今年1月で)たつ

○開所理由

以前から塾で面倒をみていたひとりの子が、家庭の事情からほぼ毎日、親の迎え(PM10時前)までうちで過ごしていた事から、社会的な施設(児童館、公民館etc)の時間帯を超えて子供たちを預ける事のできる場所の必要性を感じたので、いろいろと調べて、学童を開所することにしました。

しかし、元々、学童(定時〜PM6時まで)は存在したので、時間外の運営を特色として、急な都合での早朝、夜間も対応する事としている。(実際は急な利用(朝・夜)は、年に3・4回くらいだが：)

現在、臨時(毎日ではない)利用を含め30人弱の利用者がいるが、実際、平均1日利用17〜18

人くらいだと思われる。

○保護者の反応

学童で、子供たちが集うので、お泊り会をしている。親には、教会行事という説明をしており、おつとめの練習なども取り入れているが、8割くらいの学童生徒が参加してくれており、開所当初、「きずなを利用するのは、天理教でなくてもいいのですか?」といわれていた方もいたが、丸3年過ぎた今では、定員を決めないで：：?と思う事もある。

○今 後

いずれにしても、私の気分で、おやつを作ったり、一緒に遊んだり、バタバタの3年間ではあったが、教会のスタッフ(会長さん、奥さんや、主人、住込人)の手助けもあり、なんとか毎日運営ができた。

これからも、赤字経営は続くが、社会的に核家族や一人親家族が増えていく中、ひととひととの交わり方をしっかりと大切にしていけるような場所でありたいと思う。

今年度(3月まで)は赤字をなんとかと思いの別の仕事をしてしたが、1年勤めていて、お金は以外の収穫は少なく、何かもの足りなかったように思う。

4月よりきずな一筋で、あと、34年(70才まで)ずーっとこの場を守っていきたいと思う。



今年3月、はじめてかわった時小4だった子が中3になり作文を書いてくれた。うちの家宝になりそうなそんな作文だった。子供たちの成長を見守りながら、成長してい

く彼らが時折遊びに寄ってくれる事を少し期待しながら…。

毎日…飛んでいくように過ぎていく日々を、時折、ゆっくり立ち止まって、にやりと思いきり起している…。

(次ページに「きずな入会の手引き」を別掲)

宅老所「シルバーきずな」

芳井分教会長夫人 佐藤 香苗

今から十数年前、教会の近くをにいがけに回っていた時、近所のおばあちゃんが「一日中家に居るのは退屈じゃし、友達の家ばかり行くのも若い人に気がねじゃし、コミュニティは、予約をしてカギを借りにゃいけんし、気儘に過せる所があるといいねー」と話され、何か教会で出来たら…と心に温めて来ました。

それから二・三ヶ所、会長と二人で教内関係の施設を見学しましたが、どれも立派なもので、私達には手の届かない感じでした。

ところが五・六年前だったでしょうか、朝のNHKテレビを見てもなく見ていると、島根県の簸川町で八十二才のおばあちゃんが宅老所を開所して、その様子を放映していました。

すぐNHKへ電話をして、宅老所「ふきのとう」

の所在地を調べて、早速、会長と二人で見学し感動しました。

八十二才のおばあちゃんに「あなた方のような若い方にどんくこういう事を始めて欲しい」と励まされて帰ったのです。これなら私達にも出来ると思えました。

平成十六年一月から、宅老所「シルバーきずな」はこうしてヨタ／＼と歩き始めたのです。

はじめは、学童保育と同じ場所で行っていたので、子供達が帰って来る三時頃になると、ゴツタ返して、子供達と老人とふれあえる事はいいのですが、お年寄りには、にぎやかさが強烈すぎる感じでした。

神殿が移転してからは、宅老の方が新神殿に移り、今は、古いプレハブを建てていただき、畳から、カーテン、照明器具その他の用具一切リサイクル品で…エアコンだけは新品ですが…。

思えば、高齢者が相手ですので出直しも多く、今までに来所しておられた方が三人出直しされました。

性格がかなりきつく厳しい方が、亡くなる前は別人の様に人相が変わって教会に来る事を楽しみにして下さっていました。

又一人は、実の親娘で暮らしておりましたが、親子の因縁の悪い方だったので、大変仲

が悪く、来所する途中、交通事故で亡くなってしまいました。おばあちゃんにとっては、この出直しも良かったのかも知れないと思っています。

又一人はまだ六十代の方でしたが、うつ病があり、宅老所に来るようになって明るくなられ「三のつく日はどこへも行かんから」と言って、ことのほか、楽しみに宅老所に来て下さり、教会の菜園に玉ねぎを植えたり、つるし柿用の柿を取って下さったり…先々を楽しみにしておりましたが、出直しの前日、教会の前の道を、愛犬と一緒に散歩し、庭の木立ちの間から、私の姿を探すように見ながら、歩いて行かれたのを最後に、翌朝未明、突然脳いっ血で亡くなってしまいました。

こんな悲しい出来事もあります。現在、九十才のおばあちゃんは宅老所へ、娘は子供の時こともおぢばがえり、孫は学童保育へ…という五十年代のご夫婦がそろって別席を運んで下さっております。

宅老所と学童保育を始めてから、少しずつ地域の人達と親しくさせて頂いた、本当に有難いなあと思うこの頃です。

教祖百三十年祭までは頑張りたいたいと思っておりますが、その後はどうなる事でしょう。私も宅老所に入所する年頃になりますので…。

こんな事言っていると、簸川町のおばあちゃんに笑われてしまうかも知れません。

その際皆さんの希望は参考にしますが、運営状まったくのボランティアです... ご理解ください。

- ★ 時間... 基本的には18:30までです。19:00まで大丈夫です。
⑤食事について
★ きずな設立より2年間食事を用意させていただきましたが、これ以上不可能と判断しました。各自お弁当、お茶を必要に応じて準備してください。
⑥備品について
★ きずな備品について、万が一破損させた場合は、破損にかかわった生徒のほうで負担して弁償していただくこととなります。
~ご家庭のほうでも物の大切さをしっかりと教えておいていただきたいと思います。~

⑦指導員について

Table with 2 columns: Name/Role and School Affiliation. Includes 佐藤真孝 (臨時 小学校免許所有), 佐藤和代 (常時 中学校免許所有), and 〇〇〇〇 (金曜 保育士免許所有).

〇きずな行事について

- 3月.... 説明会、保護者会と兼ねています。
8月.... キャンプ
11月... ぶるさと祭り出店 (希望)
12月... 年末おたのしみ会

毎月の保護者会はありませんので、3月の保護者会では、必ず保護者の方の参加をお願いいたします。
どうしても都合のつかない方は、他の行事の参加をお願いいたします。
また、これは、きずな行事ではありませんが、毎月お泊り会(都合で中止の月もあります)をしております。ご希望の方のみ参加していただければと思っています。
これから一年また一生懸命わが子と同様ときには厳しく、ときには温かく見守っていくつもりです。保護者の方のご理解をお願いいたします。

宅老所「シルバーきずな」規約

- 〇毎月 3日、13日、23日(都合によって変更もある)
〇朝10時から夕方まで(何時来ていつ帰っても可)
〇70才以上でなんとか自分で自分の事が出来る人
〇参加する度に1回500円(昼食費、おやつ、材料費、その他)
〇希望の方は送迎あり
〇内容 おはなし会、手芸、料理、おどり、将棋などへ
〇昨年一年間の主な内容
1月 新年会、手芸(小鳥のネックレス)
2月 切り干し大根の切り方講習、パッチワーク
3月 よもぎ摘み、草ダンゴ作り、ふくろうの小物づくり
4月 近くの公園で花見の予定が強風の為変更、教会でお弁当食べ作りおしやべり、つくしの八カマを取りながらおしゃべり、つくし料理
5月 穫れたての玉ねぎを使ってゴキブリダンゴ作り、パッチワーク、ポー作り
6月 木綿で布ぞうり作り、ゴキブリダンゴ作り(原平市環境フェスタ出品)
7月 帽子クラフト作り、パッチワーク
8月 パッチワーク
9月 ひっくりかエール折紙、パッチワーク
10月 芳井町ぶるさと祭出品物作成
11月 ぶるさと祭り出店、福山グループホーム「春」慰問
12月 ゆび編みマフラー、忘年会 などなど...

きずな入会の手引き

Table with columns: Category (e.g., ①月額, ②学業休業日), Amount, and Notes. Includes details about fees and insurance.

- ①保育料について
★ 基本的に月額利用が原則です。月額の場合1時間100円として計算していただきます。
★ 学業休業日「代休、夏休み、冬休み、春休み」は、月額に、通常時間帯以外の時間帯に対して、1時間あたり100円を保育料とします。
★ また、夜間や早朝利用につきましては、ご相談ください。
②入所に必要なもの
★ お道具セットを各自で用意してください。ロッカーに入れておいて置きます。(ゼロテープ、はさみ、のり、おりがみ、じゆうちょうなど)
★ 入所申込書(きずなへ、提出)
★ 必要に応じて、着替えなどを持ってきてもらうことがあります。(特に夏、冬)
③保護者の方へのお願い
★ 習い事について、きずな利用の間の習い事については、下記の事項についてご理解の上、可能です。
・習い事をする本人が安全に習い事に通えること、きずなへ帰ってくること。
・習い事をする本人が、時間の把握が出来ていること。(特に長期休業日の習い事には注意してください)
・習い事についてきずなサイドで、気は配っていますが、習い事へ行くのを忘れていたり、時間がわからない場合にしても保護者の方の管理を条件とすることをご了承お願いいたします。
★ 学校からきずなへの帰宅について
・月額利用の生徒については、もしもの場合について、保険加入という形で一応の保障はしていますが、学校まで迎えに行くことは、運営上不可能ですので各自お宅でのご指導をお願いいたします。
・また、特に、間違えてきずなでなく自宅に帰ってしまった場合、申し訳ありませんが家まで迎えに行くことは努力はしますが約束できません。(一人しか指導員がいないことが多いです。また、車など、交通手段がありません。)各自で利用される当日朝、必ず確認をしてください。(学校のほうで連絡帳に記載は、必須です)
・幼稚園児・芳井保育園児の、お迎えは毎日可能です。
★ きずなからよそのお宅へ遊びに行くことについて
・基本的には、保護者の方のお任せします。行き帰りの責任は保護者の方でお願いいたします。
④開所日と休所日について
★ 開所日は、毎週月曜日から金曜日の5日間
・ただし、事前に相談されれば、土日祝祭日の利用の可能性はあります。(日程が合わない場合は利用できない場合があります。早めにお知らせください)
★ 長期休業日(夏休み、冬休み、春休み)は基本的には開所していますが、お盆、お正月はお休みします。

立教156年7月4日号
天理大学教授 上原豊明
五月二十三日、アメリカ・ルイジアナ州の裁判所で、日本人留学生・服部剛丈君射殺事件に対する評決が行われた。陪審員の結論は、無罪。日本でも、大きな波紋を呼んだ。
私は、この判決についてとやかく言う資格を持たない。しかし、個人的には、もっと違った判決であってよかったと思う。と同時に、文化や社会情勢の異なる土地で起こった事件。その土地の犯罪状況や住民感情、法律とその運用事情等々を知らずして、日本の尺度だけで測ることは難しいことも痛感した。
しかしここでは、事件そのものの経緯や評決、今後の展開を云々(うんぬん)したいのではない。今回の事件から、私たちが何を学び、何を考えるかを提起したい。
まず、ハロウィン(万聖節という諸聖人の祝日の前夜祭)。この日、子供たちは、仮面や衣装を身につけて近所の家々を訪ね歩き、「トリック・オア・トリート(何かくれる? それともいたずらし



第6回 服部君射殺事件から 銃器のいない 世界に



「無罪」評決を伝える新聞
〔読売新聞〕5月24日夕刊大阪本社3版



ようか?」と言ってお菓子をねだる。
しかし一九六〇年代後半から、不幸な事件が相次いだ。ベトナム戦争による人心の荒廃からか、お菓子に針やカミソリの刃、麻薬などを入れる者が出てきたのだ。このため、親が付き添い、町によつては日を変えて行うようになった。

七〇年代には、大人の仮装パーティーもはやる

ようになった。すると、これに乗じて、仮面をして押し入る強盗事件が起こるようになった。

こうして、現代のハロウィンの「常識」が出来上がった。アメリカの人々は、自己防衛に敏感だが、特にハロウィンの前後は神経過敏といえるほど。ピストルなどの銃器で武装するまでになった。

背景に経済不振、貧困、麻薬、生活苦などからくる強盗や殺人の増加もある。人々は護身のために銃器を求め、全米の一般家庭に二億三千万丁もあるという。これは一家庭に二丁、各個人に一丁という数字。今回の事件が起こったルイジアナ州では、銃器による犯罪死者数が、交通事故の死者数を上回るともいう。

ところで、アメリカを訪れる日本人は、こうした事態やアメリカ社会の現在の「常識」を知っているのだろうか。八〇年代から、世界の各地で発生している日本人旅行者に対する事件の多くは、金目当てのもの。日本人の国際的環境に対する無知が誘因となっている側面も否めない。

この点から、外国に出る人には、その国に関する予備知識を、単なるガイド的なものにとどまらずに、十分な文化理解を伴うものとして施す必要がある。

外国では、日本での生活や常識を切り離し、その土地の考え方を理解して行動するよう切

り替えること。

「ローマでは、ローマ人に従え」の格言もある。さて、お道では。この世界は「神の体」であり、すべての人は「一れつきょうだい」と教えられ。そして、世界の人々が分け隔てなく喜怒哀楽を分かち合つて暮らす(「陽気ぐらし」)を目指しているのは、ご承知の通り。そこに至るには、長い、ひたむきな「人たすけ」への努力が必要。その中で、銃器、暴力、戦争のない世界を打ち立てることとは、私たちに課せられた使命でもある。

その使命を達成する道はいままで以上に積極的な海外布教を展開することにあると思う。そのためには、用意周到な計画が必要で、派遣する布教師には十分な異文化教育を施したい。

私は長い海外生活の経験で、当該国の文化・言語に対する理解の大切さを身にしみて感じた。特に、生活する町の性格・住民の気質をよく知るとともに、どのようにしてコミュニティーに受け入れられるか、隣人に喜ばれる人間になるか。それには、相手の立場を理解し、相手の立場に立って考え、行動しつつ、自己の行為を通して親神のみ教えを伝えていくしかない。

この意味で、今回の事件を機会に、相手国の言語の習得と文化・生活・社会様相の理解を第一に取り上げて、海外布教の未来を考えることを提言したい。

◆立教170年 こどもおちばがえり

【期 間】 7月26日～8月4日

【テ ー マ】 「ありがとう あふれるよろこび たすけあい」

○全教会帰参を達成しよう

◆研修員25期生募集

【出願資格】 (1) 団長が推薦し、直属教会長が認めたる者
(2) ようぼく(研修期間中におさづけの理を拝戴する者も可)

【出願締切】 平成19年2月21日(大教会)

【出願手続】 次の(1)(2)(3)を一括して提出の事

(1) 少年会本部研修員推薦書 (少年会本部所定用紙)

(2) 履歴書 (少年会本部所定用紙)

(3) レポート「少年会と私」 (200字原稿用紙4～5枚)

※少年会と自分との関わり、少年会員を育成する上での抱負など

◆少年会笠岡団 育成講習会

【と き】 3月21日祭典後 午後1時半～3時半まで。

【対 象】 各教会の育成委員長(2月20日までに名簿を提出して下さい。)

【内 容】 教会おとまり会やこどもおちばがえりでの車中ゲーム・音楽遊びの指導。

【講 師】 少年会本部部員

◆少年会笠岡団 おつとめまなび総会

【期 日】 4月1日(日)

◆各行事に参加ご希望の方は、

各ブロックの担当者にお申し込みください

歩きながら我が心を見つめる。「お前は何を考
えているのか」「あの時、大震災で、亡くなって
いたかもしれない」「それなのにあれからお前は
何をしているのか」神様が仰っているのかもしれ
ない……。

少しでも何か役に立つことをしないとイケな
い。何でも世話をさせてもらったり、喜んでもら
うことをしよう。改めて深く心に刻んだ。1月17
日を決して忘れない。(ゆ)

私は毎年その日は神戸の東遊園地の「1,17のつど
い」に参加する。当日の献花1100人、記帳9400人。
私は唯意味もなく歩き回る。「希望の灯り」の
前で泣いている人を見る。懐かしき人を思いだし
ているのか? それとも「優しさと思いやり」の
シンボルに何を思うのか? 私も共に悲しい。6610
の竹筒にロウソクが灯る。鎮魂、忘れないの字が
書かれている。周りの誰も言葉が無い。皆の思い
が亡くした家族、友人、恋人に向かっているのだ
ろうか?



平成7年1月17日
未曾有の大地震が起
こった。阪神大震災
だ。
あれから12年……。